

発生の真因追求が急務

“**検閲制度**”には絶対反対する

政府機關である中書省、少監閣、國史館、
議院では、尙書、良化朝正、閑
す、對日、を先願定見、来る七
月二十日には國府會議として
は初め、青年団、を招請しての開
場、ついで各団体の對策、成果
等について、趣々陳述すること
が、たつた。

化財が遺散されたとにはなら
ない、實際に良化文化は少
くないこととはなり、文化は何
くなくのこと、結語に良化文化財
生の願を遺託しないで、やた
らに對策、對策に終結するだけ
だから、ではその願を如何に
あつてはどうか。

新聞、ラジオ、そしていわゆる諺
合、權威をとするもの、餘部を
くめて、その商業、文化は眼
にあまるのが、わが國に
暇の許すなめた大業、いゝめる
民主主義、といふ勢、日本も日
渡つてしまつた。そしてこれを商

者は政治、經濟その他社會
わたる日本の現象、興味本
いて、讀む面白となり、問題
は何かを考へるに、

その遠田
バック

その遠因は何か？

バックボーンなき言論に

二つのアメリカ映画をめぐって

最近「アメリカ映画をのぞいて、世論がやかましくなっている。一つは高校生向けの『フォーエバー』に賛否したもので、他は日本版『ドラゴンボール』である。胸躍るキヤノンものである。最後には悪がしび、善が勝つ

は、単に販賣けの問題ではなく、わが国が今日にちんしんしている不良文化附随としての、般民の争い、過激した原因があるのではないか。それ何もの、欠点とバツポイント」についてもの、大陰である。出版、言論界開ねすおよそソノミニニエーションと弄えられ

「考える」習慣を養ひたり、大衆は「ヨナリスム」の断と報道に絶えずに
するしななくとも、現世の情が徐々にあつたわ
れてゐるのである。

現在迄である。來國映画に対する
世論の非難も、觀の如き程によつ

て形骸としてはいかにあつてもよい。勿論われわれは「勢う教座をも」「竹の露」も決して歡迎すべき米國新聞といふことはできない、好むべきであるとして追放するの故は充分に情願であるところである。しかうながらこゝでの判断誤つてはならぬ。さてこの種の新聞をを放逐するだけで、まづこれにものをきつて英國の處によつて、つまり一般の公明眼阻止することができたとして、それは一助ではなかさうない、結果としては、マチニコに終つてしまふのである。

をわが國の當事者たるに振當す。

力伯、平和論を執筆

友愛革命の始端者リヒアルト・クーデンホッフ・カレルギンに、現在スイスのベルンに在りて、"平和論"を著す。

執筆中である。この頃が生
る九月、日留便でもあれ
た。同伯かとの所感にあ
ると、この平和論は昨年
平・西郷ハチロー上ル
に於いて同僚の第上野川
ロッパ巡視大佐の東京上陸に
対し、

をきき本会にいても昨年
の同伯の相対抗は、われ
われの平・西郷相対抗と
とり上げざることをある
が、この下野川上ルの平
論が完全なれば、まさに
われわれの平和運動とい
ふ欠の必要なるものでも
ある。今年十月旬には、
のドイツ雑誌が掲げられる
ことになっている。

写真はカール・ル

官制檢閱制度

は出現するか

就職は更に困難

文部、労働両省関係方面に通達

[illegible]

視聽覺教材無料配布

文部省実施要項発表

「秘傳文化振興」の地方産業で本
会の開催に資する因は高
まつてゐるが、文部省では應
政賞材を採集し青年年がしく利
用出来る体面整へることになつ
たので年度実施計画がその個類
表された。これは実録の曲説は次
の型である。

一製作の指導

文部省が毎年改訂版即れた
秘繪圖の作品中文書會
まほは特別規定し作品
種と都道府県の市を勘
賜する。この購した
一原図約千五、幻景
約千五種で文部省が全
分けて都府県に対し
布す。なる解説をも

既定方針を積極化

対政治、社会問題解明に

本会の政治・社会問題に対する態度については昨年来一応の方向が打ち立てられて来たところであり、社会の現状はこの種問題に対する早急な態度鮮明を必然的に要望しているのである。われわれの運動

大成功を収む

移動映画班帰る

東北派遣の移動文化映画班は、去る七月二十二日より四十日間にあたる日程を無事終了、巡回地におけることへの意欲がうかがえる。

いての大成功を土産に八月三十一日全員無事帰京、四国掲載の報告書を本部に提出、その使命を果し、同じくその席上、次回の巡りについては川手常任幹事が、なり計画することに決定、

本部においては同日たちに反班では今後の活動にそなえより班員を募集、映画技術

四月・九月
める。